

# 第77期 中間報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで

## 繋ぐを創る 世界を繋ぐ

リックスグループは、“販売・技術・製造・サービスの高度な融合”とパートナーとの“協創”により、世界の産業界の課題解決のためのソリューションを提供します。



事業紹介

商品

圧力発生機

ブランジャーポンプ

高圧水の発生源となるポンプ  
高圧水洗浄装置の動力源として利用



応用機器・システム商品

ロッキーワッシャー

多用途の高圧水洗浄機



金属接合機(TOX)

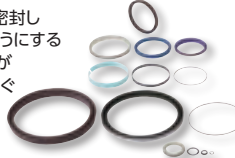
異種金属板を接合する機械



付属機器・部品

オイルシール類

高圧の水・油を密封し  
外に漏れないようにする  
外部からダストが  
侵入するのを防ぐ



関連技術商品

三方ピストン弁  
(ロッキーバルブ)

高圧のガス等の流量を  
調整する弁  
主にタイヤメーカーの  
加硫機に使用



商社機能

製品

応用機器・システム製品

フラックス精密洗浄装置

半導体新製品(CSP、  
BGA等)の製造工程に  
使用されるフラックス  
を除去し、純水にて精密  
仕上げ洗浄を行う装置



付属機器・部品

クリーンルーム対応ロータリージョイント

半導体業界で、CMP設  
備などに水や研磨剤な  
どを供給する回転継手



NC高圧洗浄機  
(ジェットフレックス)

自動車業界向けの、  
高圧水を利用した部品の  
深穴の金属バリ取装置



工作機械用ロータリージョイント



マシニングセンタ  
でクランツ液を  
スピンドルから噴  
射する用途に使用  
する回転継手

メーカー機能

営業区分

リックスはお客様のニーズに  
迅速・的確に対応できる顧客  
密着型の「メーカー商社」と  
いう業態です。

鉄鋼

自動車

電子・半導体

ゴム・タイヤ

工作機械

高機能材

環境

紙パルプ

その他

ごあいさつ

株主の皆様には、平素よりご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第77期中間期(2022年4月1日から2022年9月30日まで)における業績のとりまとめを終えましたので、ここに第77期中間報告書をお届けいたします。

経済活動の正常化が進みつつも第八波の到来が懸念される中、コロナ禍の収束と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。また株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員 安井 卓

販売・技術・製造・サービスの高度な融合を目指す  
メーカー商社として世界の産業界に貢献します。

**Q** 当中間期の営業概況について教えてください。

**A** 前年同期比で、売上高は10.4%増の211億79百万円、営業利益は23.9%増の14億13百万円、経常利益は30.7%増の17億34百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は29.9%増の11億76百万円となりました。

当中間期の世界経済は、インフレ率の高水準化や各国における金融引き締め、ウクライナ危機の影響等により景気回復の勢いが鈍化しました。また、日本経済は夏場の感染再拡大が要因となり、個人消費の低下が見られたものの、デジタル化や省力化等に対する企業の設備投資は増加基調が継続しております。

このような経済環境の中、当社グループでは中期3ヵ年計画「GP2023」に基づく施策に取り組んだ結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高211億79百万円(前年同期比10.4%増)、営業利益14億13百万円(同23.9%

増)、経常利益17億34百万円(同30.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益11億76百万円(同29.9%増)となりました。

**Q** 当中間期のセグメント別事業の概況について教えてください。

**A** 8セグメント中、6セグメントで増収となりました。

鉄鋼業界向けでは、整備部門だけでなく操業部門への営業活動に注力した結果、当社グループ会社製品であるベアリング再生の売上が伸びたほか、コイルスキッドや圧延ロール、仮設水処理用レンタル品の増加が見られました。この結果、鉄鋼業界向け全体としての売上高は59億48百万円(前年同期比4.4%増)となりました。

自動車業界向けでは、CASE市場で注目されている電池やモーター分野への営業・提案活動に注力した

# トップインタビュー

結果、電池・モーター製造設備及び付帯機器の販売と、フィルター・電子部品の修理等が売上増に寄与しました。この結果、自動車業界向け全体としての売上高は39億91百万円(前年同期比13.6%増)となりました。

電子・半導体業界向けでは、修理・再生ビジネスに加え、現場・設備・保全部門に対して営業活動に注力した結果、半導体製造装置用シール材や半導体製造装置用の消耗部材に加え、当社オリジナル品である湿式微粒化装置「G-smasher」の販売やロータリージョイント類の販売が増加しました。この結果、電子・半導体業界向け全体としての売上高は32億61百万円(前年同期比19.2%増)となりました。

ゴム・タイヤ業界向けでは、前期に続き開発案件のフォローや新規案件、設備投資に関する営業活動に注力した結果、タイヤ生産設備向けの治工具や水処理施設向けポンプの販売が増加しましたが、ポンプの更新案件が縮小した落ち込みを埋めるまでには至りませんでした。この結果、ゴム・タイヤ業界向け全体としての売上高は12億43百万円(前年同期比7.2%減)となりました。

工作機械業界向けでは、工作機械の複合化の要求に対応する多ポートのロータリージョイントの営業・開発に注力した結果、当社オリジナル製品であるロータリージョイントのほか、

渦巻ポンプや油水分離装置の売上が増加しました。この結果、工作機械業界向け全体としての売上高は12億12百万円(前年同期比33.4%増)となりました。

高機能材業界向けでは、医薬・化粧品分野の開拓に加え、フィルター販売にも注力した結果、NF膜ユニットの販売のほか、真空ポンプの補修案件などが売上増に寄与しました。この結果、高機能材業界向け全体としての売上高は10億98百万円(前年同期比33.6%増)となりました。

環境業界向けでは、近年重要視されている環境産業・エネルギー産業への深耕に注力した結果、下水処理施設へのポンプの販売や排ガス処理工程へのフィルター類の販売、バイオマス発電向け伸縮継手や磁選機の販売等が売上増に寄与しました。この結果、環境業界向け全体としての売上高は11億47百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

紙パルプ業界向けでは、最先端のバイオマス素材であるCNF分野やケミカル素材分野、エネルギー分野への商材開発に注力した結果、チラーユニットのレンタル等で売り上げを伸ばしたものの、減速機修理案件の減少等の影響を受けた結果となりました。この結果、紙パルプ業界向け全体としての売上高は3億78百万円(前年同期比10.4%減)となりました。

**Q** 下半期の展望などについてお聞かせください。

**A** 経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益の通期連結業績予想を上方修正いたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高、営業利益はほぼ計画通り進捗しましたが、急激な円安に伴う為替差益の増加など予想を上回る営業外収益が発生した結果、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は計画値を上回りました。下期業績につきましては、前回発表時点の計画値から大幅な乖離はないと見込んでおります。

このような上期実績と下期予測のもと、当社では、経常利益の通期連結業績予想を31億円から33億50百万円(増加額2億50百万円・増加率8.1%)へ、親会社株主に帰属する当期純利益の同予想を21億円から22億50百万円(増加額1億50百万円・増加率7.1%)へと、それぞれ上方修正いたしました。

**Q** 株主還元の状態など株主様へのメッセージをお願いします。

**A** 通期業績予想の上方修正に伴い、期末普通配当予想も上方修正いたしました。

当社では、日頃から当社をご支援いただいている株主の皆様に対する利益還元により一層の充実を図ることが重要であると考え、2023年3月期の中間・期末配当より、配当性向の目標を個別配当性向30%から連結配当性向40%へ引き上げております。

これに基づき当中間期末では、前年同期よりも25円増配となる1株当たり50円の間配当を実施させていただきました。また、前述のように通期業績予想を上方修正したことに伴い、期末普通配当予定を10円増額し、前年同期よりも20円増配となる1株当たり60円といたしました。これにより年間配当金は、前期よりも45円増配の1株当たり110円となる見込みです。

株主の皆様には、当社グループの企業価値をご理解いただくとともに、今後の発展にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## Corporate Identity

培われた伝統のもとに、さらに未来への飛躍を図るというイメージを表現しています。

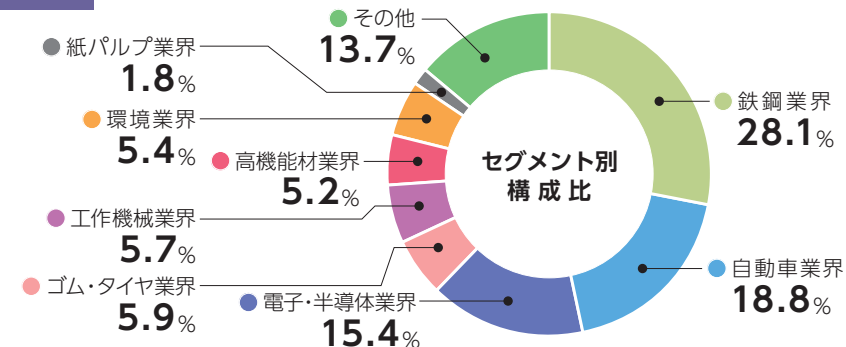


- R** 自社ブランド「ROCKY」の頭文字
- I** INDUSTRY (工業/産業)の頭文字
- X** 無限の可能性と将来性

リックスの青色  
信頼を表すブルー

リックスの赤色  
躍動感あふれるレッド

## セグメント別構成比



## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末 (2022年3月31日現在)	当第2四半期末 (2022年9月30日現在)	科目	前期末 (2022年3月31日現在)	当第2四半期末 (2022年9月30日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	27,184	27,051	流動負債	13,257	13,216
固定資産	7,003	7,978	固定負債	1,430	1,344
有形固定資産	3,050	3,621	負債合計	14,687	14,561
無形固定資産	163	232	<b>純資産の部</b>		
投資その他の資産	3,789	4,123	株主資本	18,464	19,239
資産合計	34,187	35,029	資本金	827	827
			資本剰余金	1,057	1,053
			利益剰余金	16,986	17,835
			自己株式	△407	△476
			その他の包括利益累計額	679	853
			非支配株主持分	356	376
			純資産合計	19,500	20,468
			負債・純資産合計	34,187	35,029

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
売上高	19,189	21,179
売上原価	14,609	15,906
売上総利益	4,580	5,272
販売費及び一般管理費	3,439	3,859
営業利益	1,141	1,413
営業外収益	193	337
営業外費用	7	16
経常利益	1,327	1,734
特別利益	8	0
特別損失	1	0
税金等調整前四半期純利益	1,333	1,734
法人税等	416	546
四半期純利益	917	1,187
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	905	1,176

## 連結包括利益計算書

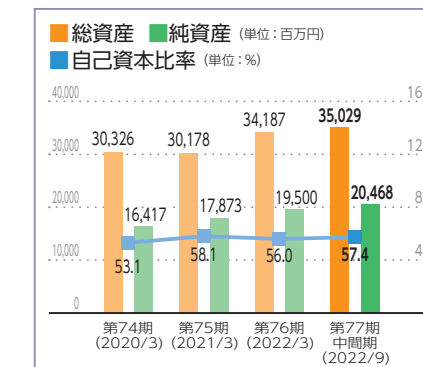
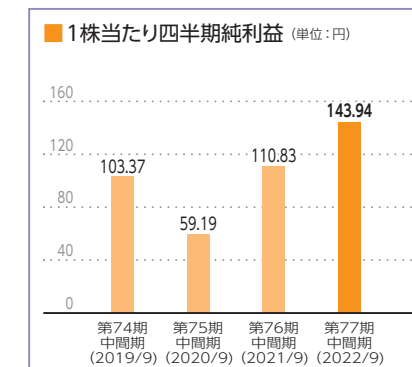
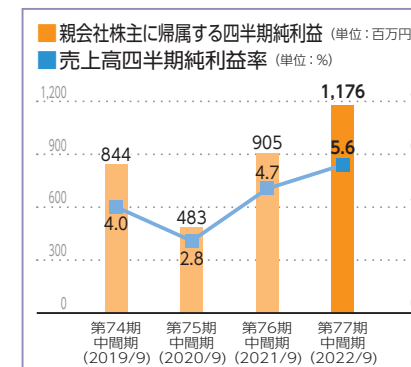
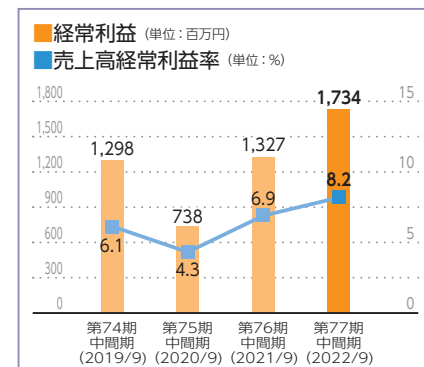
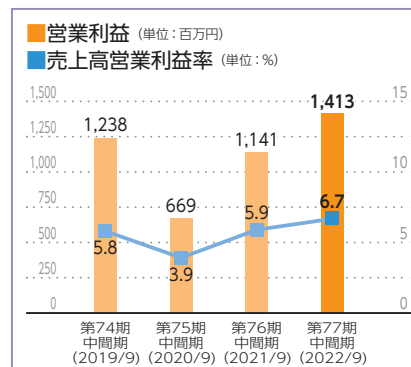
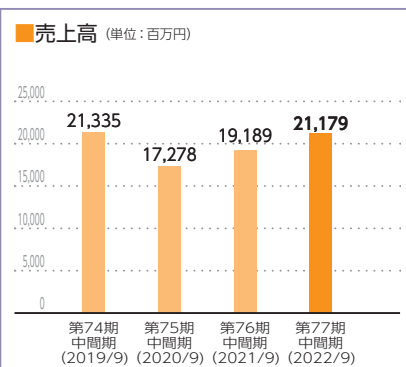
(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
四半期純利益	917	1,187
その他の包括利益	67	182
その他有価証券評価差額金	△14	△38
為替換算調整勘定	86	223
退職給付に係る調整額	△4	△3
持分法適用会社に対する持分相当額	0	1
四半期包括利益	984	1,370
(内 訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	975	1,349
非支配株主に係る四半期包括利益	9	21

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,185	△139
投資活動によるキャッシュ・フロー	△397	△1,203
財務活動によるキャッシュ・フロー	△242	△415
現金及び現金同等物に係る換算差額	38	83
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	583	△1,674
現金及び現金同等物の期首残高	7,043	8,195
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,627	6,521



当社グループの業績は国内製造業の設備投資と生産活動に依拠しておりますが、国内製造業の少子高齢化に伴う国内市場縮小を見越し、地産地消の考えに基づいて海外への生産移管をますます加速していることから、この変化への対応が最も重要な経営課題となっております。

2021年度より中期3カ年計画「GP2023」を下記のとおり策定し、経営課題の解決と経営目標の達成に全社一丸となって取り組んでまいります。

## GP2023 (Rix Growth Plan) 2021年度～2023年度

### ビジョン

リックスグループは、“販売・技術・製造・サービスの高度な融合”とパートナーとの“協創”により、世界の産業界の課題解決のためのソリューションを提供します。

### 目標

## 2023年度 連結経常利益 35億円 の達成

### 方針

#### 1. ビジネス領域の拡大

- ① 現状の業界・業種の拡大(顧客開発部門への複合型メーカー商社\*1機能の強化)
- ② 成長分野の開拓(車の電動化、再生エネルギー、医薬・化粧品、建機等の新規顧客開拓と流体制御技術を軸とした新商品・新製品・新サービス開発強化)
- ③ 海外展開の強化(北米、中国、インドの事業強化)

#### 2. 収益性の向上

- ① 事業活動の効率化(DXの推進)
- ② オリジナル品\*2比率の向上(新製品・新商品開発)

#### 3. 人材・組織の革新

- ① ライフ・ワーク・バランスの充実
- ② Rixing Action\*3を実践できる人材の育成、定着
- ③ 社内外協創を実現する組織の構築

#### 4. ステークホルダーリレーションの向上

- ① CSV-Creating Shared Value(リックスのビジネスを通じた社会貢献)活動の推進
- ② ステークホルダーとのコミュニケーションの強化

\*1 複合型メーカー商社とは、モノ売りだけではなく、お客様のモノづくりのプロセス全体(企画、開発、生産技術、製造現場、保全、廃棄)に対応できる機能(試作・開発支援、メンテナンス、据付、再生・廃棄、運用等)を持ったメーカー商社のこと。

\*2 オリジナル品とは、リックスグループのみから提供できる商品・製品・サービスまたはその組み合わせのことをいう。

\*3 Rixing Actionとは、RIXの経営理念・行動指針、社風・歴史、ビジネスモデル等を表す総称であり、脈々と受け継がれてきたもの。

## 01

### 新規範「Rixing Action」策定

2022年4月、当社の基本的な考え方や行動指針を示す「Rixing Action」を策定しました。グローバルな組織展開に伴い社員数も増加する中、同じビジョン・想いの共有のため、社風・歴史・行動指針などを9つのアクションにまとめています。今年で創業115周年を迎えた当社に受け継がれてきたDNAと、時代に合わせた仕事の向き合い方を融合させ、社員教育や採用基準としても用いながら全社的なレベルアップを目指します。



詳細はこちら

WEBページ



動画



- 1 善悪を損得に優先させよ
- 2 逃げない
- 3 一丸となって団結に徹せよ
- 4 明るく楽しく伸び伸びと
- 5 世界のお客様の伴走者であり続けること
- 6 ファミリーを発展の源泉と捉え 自己実現の場を提供すること
- 7 取引先様にとってお客様との懸け橋になること
- 8 持続可能な社会の一翼を担うこと
- 9 投資をしてくれる皆様の期待に応え続ける



Rixing Action

## 02

### (株)CEMが当社グループに加入

2022年6月、(株)CEM(石川県)が当社グループに加入しました。当社における産業機械製造の電装部分はこれまで大部分を外注していましたが、今回、(株)CEMを当社グループに迎えたことにより、「グループ内での機電一体」(メーカー機能強化)につながります。

#### (株)CEMの事業内容



- 電気回路・制御ソフト制作
- 制御盤製作及び配線工事
- ミキシング装置製造・製作
- ロボットシステム

#### 加入効果

自社内で電装部分の内製化が可能になるため…

利益率向上

## 03

### (株)ハイボットと資本業務提携

当社はこの度、インフラ設備点検ロボットを開発・提供する(株)ハイボットに出資しました。当社が長年をかけて培った産業界への知見や顧客密着と、同社が持つ最先端ロボティクス技術を掛け合わせ、国内外の工場やプラント設備の保全・防災により一層貢献してまいります。



(株)ハイボットのインフラ点検用ヘビ型ロボット「Float Arm」



当社社長 安井 卓(右)と(株)ハイボット ミケレ グアラニエリCEO

## 海外ネットワーク (2022年9月30日現在)



## 事業所 (2022年10月1日現在)

### 信頼と情報を支えるネットワーク

先進技術、膨大なノウハウ、鋭敏な感性、そしてサービスも含めた高信頼性。これらは、全国に張り巡らされたネットワークをベースに、きめ細かなコンサルティング・セールスを展開することによって獲得してきました。ユーザーとともに歩むメーカー商社リックスは、なによりもお客様との質の高い、多くの接点を大切にしています。

本社	★管理本部、企画本部、海外営業統括部
営業本部	■グローバル営業本部
営業所	●自動車事業部 豊田営業所、西尾営業所、小倉営業所 ●鉄鋼事業部 鹿嶋営業所、千葉営業所、君津営業所、東海営業所、和歌山営業所 ●東部営業部 苫小牧営業所、仙台営業所、宇都宮営業所、埼玉営業所、東京営業所、西東京営業所、横浜営業所、平塚営業所、富士営業所、名古屋営業所、北陸営業所、豊橋営業所、四日市営業所 ●西部営業部 滋賀営業所、大阪営業所、加古川営業所、姫路営業所、倉敷営業所、広島営業所、福山営業所、周南営業所、四国営業所、北九州営業所、福岡営業所、長崎営業所、大分営業所、熊本営業所、鹿児島営業所
工場	■福岡事業所 生産本部
研究・開発所	▲技術開発センター ▲中部テクニカルセンター ▲横浜事業所 NB開発本部



## 会社概要 (2022年9月30日現在)

- 商号 リックス株式会社
- 英文社名 RIX CORPORATION
- 創業 明治40年(1907年)10月
- 設立 昭和39年(1964年)5月1日
- 資本金 8億2,790万円
- 従業員 468名(連結716名)
- 主要な事業内容 高圧液圧応用機器、精密計測・検査機器等の製造販売

## 取締役及び監査等委員である取締役 (2022年9月30日現在)

代表取締役社長執行役員	安井 卓	取締役(常勤監査等委員)	田原 俊二
代表取締役副社長執行役員	柿森 英明	取締役(監査等委員)	植松 功(*)
取締役専務執行役員	川久保 昇	取締役(監査等委員)	大山 一浩(*)
取締役常務執行役員	苅田 透	取締役(監査等委員)	馬場 貞仁(*)
取締役常務執行役員	芹川 康介		

(\*) 社外取締役

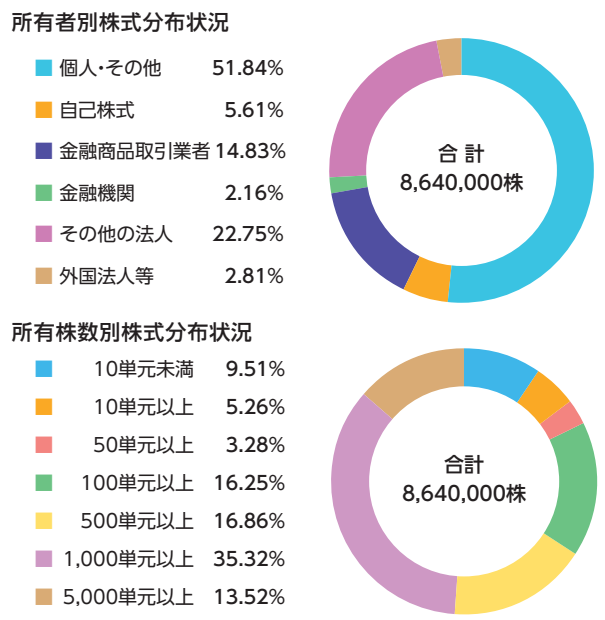
## 株式の状況 (2022年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 27,600,000株
- 発行済株式の総数 8,640,000株
- 株主数 7,011名
- 大株主(上位10名)

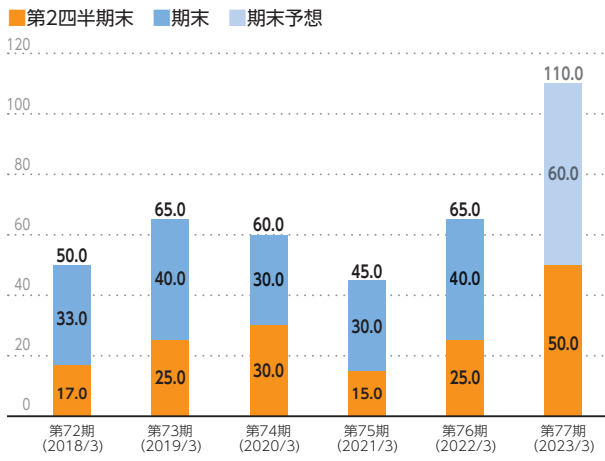
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
NOK株式会社	1,167	14.32
安井玄一郎	362	4.45
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	359	4.41
リック取引先持株会	316	3.88
株式会社西日本シティ銀行	290	3.56
リック従業員持株会	238	2.93
安井龍之助	185	2.27
園田和佳子	171	2.10
山田貴広	162	2.00
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	144	1.77

注) 1. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
2. 当社は自己株式484千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除しております。

## 株式分布状況 (2022年9月30日現在)



## 1株当たり配当金の推移 (単位: 円)



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

### 株式に関する各種手続の申込先について

- 住所変更、単元未満株式の買取請求、買増請求、配当金受取方法の指定等は、お取引口座のある証券会社に申し出てください。  
ただし、特別口座に登録された株式に係る各種手続につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に申し出てください。
- 未払配当金のお支払いにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に申し出てください。

同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711 (通話料無料)
------	---

公告方法	電子公告により行います。 公告掲載 URL <a href="https://www.rix.co.jp/">https://www.rix.co.jp/</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。
------	--

単元株式数	100株
-------	------

上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場 福岡証券取引所
---------	--------------------------

## 株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに当社株式への投資の魅力を高めていただくため、株主優待制度を実施しています。

● 割当基準日 3月31日

- 優待内容
  - 100株以上300株未満所有の株主様  
⇒ クオカード1,000円分
  - 300株以上500株未満所有の株主様  
⇒ クオカード2,000円分
  - 500株以上1,000株未満所有の株主様  
⇒ クオカード3,000円分
  - 1,000株以上10,000株未満所有の株主様  
⇒ クオカード4,000円分
  - 10,000株以上所有の株主様  
⇒ クオカード10,000円分

## 株主アンケートご協力をお願い

右記URLにアクセスいただき、  
アクセスコード入力後に  
表示されるアンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。

株主の皆様からのご意見・ご要望を今後の活動の参考とさせていただきますため、WEBアンケートを実施いたします。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから2022年12月31日(土)までになります。



### パソコンから

右記のURLからアクセス <https://q.srdb.jp/> いただけます。



### スマートフォン・携帯電話から

QRコード読み取り機能のついたスマートフォンまたは携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからアンケート画面へアクセスいただけます。



### メールから

[enq@q.srdb.jp](mailto:enq@q.srdb.jp)へ空メールをご送信いただき、自動返送されるアンケート回答用のURLからアクセスいただけます。